

# 第7弾

## 志布志モデル海を渡る!!

JICA草の根技術協力事業(地域経済活性化特別枠)

「サモアを中心とした大洋州における  
志布志モデルの推進」

### サモアレビュー調査報告

調査期間:平成26年1月10日(金)~1月20日(月)

「志布志モデル」とは、焼却なしでごみを分別し埋立ごみを減らす共生協働の取り組みのことです。

# JICA草の根技術協力事業実施経緯

- 2010.10** JICA草の根技術協力事業(地域提案型)に応募  
事業名:「フィジーを中心とした大洋州における志布志市ごみ分別モデルの推進」  
対象国:フィジー、バヌアツ、ミクロネシア、ソロモン
- 2010.12** 事業採択
- 2011.7.3~7.7** キックオフミーティング(開始式、市長議長参加) フィジーにて開催
- 2011.9.9~9.19** 志布志市研修(第1年次) フィジーから研修員を受け入れて、研修を実施
- 2011.10.30~11.8** 志布志市専門家派遣(第1年次) 廃棄物管理専門家をフィジーへ派遣
- 2012.8.22~9.3** 志布志市研修(第2年次) 対象4か国から研修員を受け入れて、研修を実施
- 2012.11.18~11.29** 志布志市専門家派遣(第2年次) 廃棄物管理専門家をフィジーへ派遣
- 2013.5** JICA草の根技術協力事業(地域経済活性化特別枠)に応募  
事業名:「サモアを中心とした大洋州における志布志モデルの推進」  
対象国:サモア、バヌアツ
- 2013.7.17~7.29** 志布志市研修(最終年次) 対象4か国とパラオから研修員を受け入れて、研修を実施
- 2013.8** 事業採択
- 2013.9.29~10.10** 志布志市専門家派遣(最終年次) 廃棄物管理専門家をフィジーへ派遣
- 2014.1.10~1.20** サモアレビュー調査

# サモア独立国の概要



## サモア独立国

Independent State of Samoa

ウポル島（サモア最大の島）、  
サバィィ島（二番目に大きい島）、  
マノノ島、アポリマ島、ヌウサフェ島、  
ヌウテレ島、ヌウルア島からなる島国

人口：183,874人

面積：2,830km<sup>2</sup>

首都：アピア

民族：サモア人（ポリネシア系） 90%  
その他（欧州系混血、メラネシア系、  
中国系、欧州系等） 10%

宗教：キリスト教（カトリック、メソジスト、  
モルモン教等）

言語：サモア語、英語（ともに公用語）

# 在サモア日本大使館 表敬訪問

2014.1.13



**在サモア日本大使館を表敬し、  
渋田一正大使とお会いしました。**

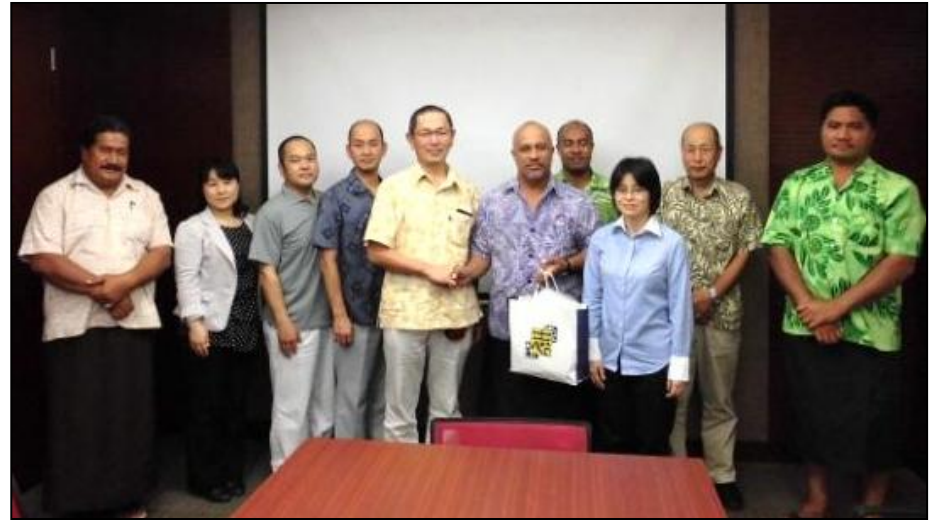
**今回の訪問の目的等を話させて  
いただき、志布志モデルについ  
ても説明させていただきました。**

**渋田大使は、本市の取り組みに  
共感してください、アドバイス  
もいただきました。**

**お忙しい中、我々調査団を受け  
入れてください、ありがとうございました。**

# サモア国環境省 訪問

2014.1.13



**サモア国環境省（MNRE）を訪問し、関係者との協議を行いました。**  
**本市からは、今回の訪問の目的、志布志市の基本的な考え方、志布志モデルの概要について説明しました。**  
**MNREから感謝の意と協力の申し出がありました。**  
**これから3年間、廃棄物管理の改善に向けて、ともに取り組むことを確認しあいました。**



# タファイガタ最終処分場 視察

2014.1.13



**サモア国の最終処分場「タファイガタ処分場」を視察しました。この処分場では、全てのごみを埋立処分しています。**

**有機物（生ごみ）も埋め立てているため、悪臭が漂い、野犬や鳥、ハエなどがいました。**

**また、訪問時サモアは雨季で、場内は廃棄物を運んできたトラックがぬかるみにはまり、動けなくなっていました。処分場の改善が必要と感じました。**



# J-PRISM事務所 訪問

2014.1.13



今回のプロジェクトでもJ-PRISMの協力を得て、サモア国の廃棄物管理支援を行うこととなりました。

J-PRISMは大洋州地域の廃棄物管理の改善支援を行っており、サモア国では最終処分量の削減に向けた支援事業を行っています。

今後もJ-PRISMとともに連携し合い、現地活動を行っていくことを確認しました。



J-PRISMとは、JICAが実施する技術協力プロジェクト「大洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクト (Japanese Technical Cooperation Project for Promotion of Regional Initiative on Solid Waste Management in Pacific Island Countries)」の略です。



# ステークホルダー会議

2014.1.14



**MNREの呼びかけでサモア国内の廃棄物関係者が集まり、志布志モデルを紹介しました。**

**出席者から多くの質問をいただき、本市の取り組みに興味を持っていただいたと実感しました。**

**ランチミーティングも行い、関係者から廃棄物の現状についての話も聞きました。**





# 現地(廃棄物関係者)視察

2014.1.14



## 収集業者からの 聞き取り調査

廃棄物の収集状況と有価物の  
収集状況等について、調査し  
ました。

## リサイクル業者からの 聞き取り調査

サモア国内での廃棄物中間処  
理のあり方について調査しま  
した。



# 農業省・ヌウファームランド視察

2014.1.15



**農業省（MA）所管のバナナ栽培農業、堆肥化施設を視察しました。**

**堆肥化施設では「ボカシ」を製造し、それをバナナ栽培に活用していました。**





# ウーマン・イン・ビジネス視察

2014.1.15



**有機堆肥を使って作物を栽培・販売する団体「ウーマンインビジネス (Woman in Business)」を視察しました。**

**この団体は、当初は女性の社会進出が目的で設立されましたが、その手段として化学肥料を使用しない有機農業を推進し、その取組から得られる農産物を売って収入を上げているとのことでした。**

**生ごみ・草木を有効活用していることは、志布志モデルと一致するものでした。**





# コミュニティ視察

2014.1.16



**コミュニティのごみ出しの様子と廃棄物収集を視察しました。**

**サモアでは野犬が多いため、ごみを荒らされないようにごみステーションは地上から1m以上の高さに設けています。**

**これでは、重さのあるごみの排出・回収は困難と感じました。**

# SPREP 訪問

2014.1.16

SPREPのKosi Latu副長官とDavid Haynes博士に志布志モデルを紹介しました。

非常に興味深く聴き入ってください、市民の意欲啓発方法について質問されました。



SPREPとは、「太平洋地域環境計画事務局 (Secretariat of the Pacific Regional Environment Programme)」の略です。



# ラップアップミーティング

2014.1.17



**今回の訪問の振り返りのための会議を開催しました。**

**以下の内容を協議しました。**

- I. 分別排出について**
- II. 収集運搬**
- III. 再利用**
- IV. 中間処理**
- V. 最終処分場**
- VI. 全体的な事項**

**今後の支援の方向性、役割分担について話し合いました。**





# JICAサモア支所へ報告

2014.1.17

今回の現地活動をJICAサモア支所の川畑さん（経済学博士）に報告しました。

サモア国廃棄物管理の現状を把握でき、来年度からの支援の方向性が見えてきました。

また、同様に海外支援を開始したいと考えている沖縄チームとも情報交換を行いました。



**ものを大切に 人を大切に**

**“混ぜればごみ 分ければ資源”**

**ものを大切に  
人を大切に  
つながっていくと思います。**